

令和3年度第1回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和3年9月2日（木）午前10時から正午

場所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2・3

出席者：【委員】

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、鎌田 元弘委員、手塚 崇子委員
黒添 誠委員、松本 千代子委員、鈴木 康弘委員、宇賀 弘通委員
近藤 恭子委員、宇賀 博委員、酒井 啓史委員、中原 恵子委員
福田 純子委員

【事務局】

池内企画政策課長、武藤主査、多納主任主事、高橋主事

傍聴者 3名

1. 開会

2. 議題

(1) 後期基本計画における行政評価について

【会長】

議題1について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明。

【会長】

非常に御説明いただいた内容、たくさんありますので、ちょっと混乱するところもあるかもしれませんが、とにかく、今日まず御審議をいただいて御承認いただきたいことは、資料の2の外部評価の実施についての10ページの部分です。

ここで、令和4年度の概要について事務局のほうから御提案をいただいていますけれども、まず来年度どういう評価をする、どのように評価を進めるのかということの確認をするというのが、今日の審議会のまず一番のポイントになります。

今、説明いただきましたように、これまでもいろいろな評価について、試行錯誤をやってきました。

今回、提案いただいているのは、平成31年度をベースにしてつくられたものですが、10ページのところにあるような考え方、流れによって実施をしていきたいというのが、

提案として出していただいているものです。

これは、後ほど改めて決を採らせていただければと思いますけれども、これを一応念頭に置きながら、それ以外、前提となっている部分も含めて、今、事務局のほうから説明をいただきました。

後期の基本計画については、どんなづくり、考え方で成り立っているのかということで、前回に引き続いて少し補足的な説明をいただきました。

特に、ロジックモデルということで強調いただきましたように、どういう課題について、どういう取組をしているのか。どういう目標、目的を設定して、どんな取組をしているのか。どういうことができているのか、できていないのか。できていない場合は、それをどういうふうに改善していけばいいのか。こういう論理的な組み立てで、この様々な施策、事業というものを評価していく。そういうづくりをなそうとしています。

この総合計画と、それからこの評価、これを組み合わせた形で回していくというのが非常に理想的だというふうに言われています。

今日の資料の1にありますように、市の行政評価システムというのは、そういう方向性を目指して、これまでも改善を重ねてきているところです。

それ以外の部分についても、いろいろ御指摘はいただきましたけれども、この基本計画、それから、この評価の仕組み、考え方について、段階的に改善を図りながら、よりよい方向性を目指して今の形になってきているところです。

今日は、先ほど言った来年度の評価をどういうふうにしていくのかということ念頭に置きながら、少し幅広く皆さんのほうから御質問、御意見をいただければというふうに思っております。

基本計画、具体的な中身については、また来年度以降、本格的に議論させていただければと思いますけれども、基本計画、それから評価の仕組み等々について、御質問、御意見がありましたら、委員の皆さんから御発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

一通り説明をいただいたので、まだちょっとこの辺がのみ込めていないとか、この辺がちょっと分かりづらいというところがあるかと思えます。特に、新しく前回からメンバーに加わった委員の方々は、ちょっと分かりづらいところもあるかもしれませんので、ぜひ御質問をいただければと思いますし、あと、前期に引き続き委員を務めていただいている方々におかれましては、ぜひこの辺、これまでこうだった、もっとうこうしたほうがいいのか、いうふうな意見等がありましたら、併せてお願いをできればと思います。

【委員】

私は、前回のときの評価委員会に出まして、ワークショップもやって、非常に良かったと思うのです。そういうことをやっていくというのであれば、非常にいいのですけれども。

勉強会も含めまして、「ああ、なるほど」というのが分かったようなことで、それがあつたおかげで、次の後期基本計画を策定するときに参考になりましたので、非常にいい試みだと思います。一昨年にやったのを改善するような形で提案されていますので、非常にいいかと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

前期の評価のときに、資料の2のところに、これは3年間にわたってやっていますよね。今回は、2年間で8項目をやるということなのですから、これは、委員さんが2年間の任期だから、そこで全部、1回評価してもらおうということなのかというのが一つと、それから、資料の2の別紙の1のところに、「赤字が前期からの変更箇所」と書いてありまして、施策名が書いてあるのですけれども、これは「ゆとりある暮らしを支えるまちづくり」と書いてあるのですけれども、実際のところでは、「ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」とか、説明と施策とがちょっと合っていない。これはあくまでも参考として書かれたのだと思うのですけれども、そこら辺がちょっと気になりました。

【事務局】

まず2点目の施策名なのですが、これは前期の施策名からの修正漏れです。正しくは「ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」です。

1点目の、2年間で全施策なのですが、今の委員があと2年で、この次の期は今から変わられる委員さんも多くいらっしゃると思ひますので、評価の視点が一緒でも、多少、今とポイントが変わる可能性もあるといった部分も考えていまして、今の任期の中で一通り、今の基準、皆様の基準の中で一通り見ていただくのがいいのではないかとすることを事務局として考えているのですが、例えばそうすると、1年間で4施策でちょっと多いというデメリットもありますので、委員の皆様からその辺を含めて御意見を頂ければと思ひます。

【委員】

私が言ったのは、前回は9項目あつたわけですよ。それを今回8項目なのですから、毎年毎年、評価をやっていくと、次にまたプレイバックではないのですけれども、新たなアプローチができるという意味では非常にいいかと思ひますので、2年間でやっていただいても別に構いません。ただ、その真意を聞いただけです。

【会長】

事務局からの提案としては、来年度と再来年度で、四つ四つで評価をしていくということですので、まずは来年度、前半の四つに絞って濃密な議論をできればというところになっているかと思ひます。

ほかに御意見、御質問、いかがでしょうか。

【委員】

私もこれで4年携わっているわけですが、市の行政を進めていく上で、この総合計画というのは大変重要であり、重いものだなということを委員として感じております。

その中で、今、後期の初年度というわけなのですが、前期と後期と、この10年間という長いスパンで基本計画はつくられるわけですが、次の10年間の予定については、どのような時点でそれを始めるのか。なぜかという、今ちょうど後期の初年度で、2年間かけて八つを評価する。それは、今の時点で後期の分を評価するわけですがけれども、そうすると、もう一回8項目について、この後期について評価をやるのか。そしてまた、次の10年のスパンについては、どのような形で新しく取り組んでいく予定なのか。その辺の少し長期的な見通しについても伺いたいなというふうに思います。

【事務局】

過去の例を申し上げますと、参考資料1を御覧いただくと、策定関係がどのあたりの時期にスタートしていたかといったところが記載されています。

例えば、一番左、縦軸で見ていただくと、第4次。策定関係を見ていただくと、平成25年の3年目の下半期。ちょうど5年間の半分過ぎたあたりから、第4回は方針策定に入っていくといったところが、今までの流れになります。

としますと、そこが多少前後はあると言っても、恐らく今の任期の中で、そこが入るかどうかわかり、状況が何か変わることがなければ、本格的に入っていくのは、その次の任期から考えていく部分になるのかなというのがある。

要するに、今の任期の各委員の皆様については、第6次ではなくて、第5次の後期の総合計画の走り出しをいかにスムーズに出していただくか。評価もそうなのですが、むしろ進めるより、多分、最初の2年間でメインですので、まだ成果が分からないものの中にはあるかもしれません。どう進めていくか、お尻を叩く役割もあるのかということ考えています。

【委員】

分かりました。なぜかという、この10年間ということ長いスパンの中で、この三つの基本的な目標というのは、後期で何か変えられないのかという意見も出させてもらったのですが、この構想として決まったものというのは、なかなか重いものだから、なかなかそういかないのだと聞きましたもので。そういう意味では、これから2年評価する中で、次の10年を見据えた評価が必要なのだなというふうに感じましたので、確認させてもらいました。

【会長】

今、委員から御質問いただいたその総合計画は、基本構想で10年のスパンの下に考えられているんですね。今回は、その10年のうちの後半の5年間、これをどうしていくのかということ、今、方針が固まって今年度から動き出しているところです。

ただ、今、委員がおっしゃったように、この5年間の後、また新たな10年間の基本構想、総合計画がつけられていくという。それに向けて、どんなことをこれから考えていかなければ

ればいけないのかという、こういう課題は、当然のことながら残されていると思います。

これは、この後期基本計画を具体的に動かしていく中で、どういう課題が出てくるのか、あるいは、これまで前期でやってきたことも含めて、この10年間で総括していくというふうなことも併せて、恐らく考えていかなければいけないところかと思っておりますので、そういう見通しの中で、次に向けた準備も少しずつ進めていくということになるのかなというふうに、個人的にはちょっと思っております。

この辺、まだまだ事務局も、これからいろいろ検討を重ねていくところかと思っておりますけれども、もちろん次に向けた準備というものも、併せて進めていくということにはなっていくのかなというふうには思います。

【委員】

私、今日、初めて参加をさせていただいてということですが、やはり資料を見ても、かなり膨大なのかなというところで。地域に関しては、このPDCAサイクルで多分皆さんチェックもされて、評価もされてというところで。大まかな改善をしないといけないところは、行政のほうで把握をされているかとは思っております。

このボリュームで、皆さんでワークショップで揉んでというのも一つかとは思っておりますが、ある程度行政のほうで、この後期に対しても、予測されることは把握をされているのかなと思うので、率直にこのコロナ禍で、実際皆さんで集まってそれを議論ができれば一番かとは思っておりますが、今回、勉強会と質疑応答の時間も少なくなっている中、このときに見て思うと、行政のほうから、ここが課題点というところで提案をいただいて、そのことに対して、事前に各個人の思うところを持ち寄って、このワークショップですか、そこに臨むというようなところが、時間も削減でき、あとは、この膨大な中から何をというと、私の中でもまだイメージがついていないので、その辺、行政のほうで把握されて提案というのは、可能なのか、お聞かせいただければ。

【事務局】

事務局から説明させていただきます。今までの説明が、ちょっと端折ったところもありますので、まず流れについて、もう少し具体的に御説明させていただくと、予定では、5月にそれぞれの施策について、市として評価シートが、市の評価が終わった段階で皆様に御提出をさせていただくこととなります。

ですので、この施策については、こういったところが課題なんですとか、そういったところは整理した上で、また、過去にも詳細な説明が必要なところは、パワーポイント等で資料をお作りして、5月に説明をさせていただいて、それでも分かりにくいところについては、事前に質問を頂く。そういったところを考えておりますので、突然何もない状態で勉強会ということではないというふうに考えております。

【委員】

今の御意見伺って、私も昨年させていただいたのですけれども、今、事務局からも御説明、ちょっと量があって不安かと思えるのですけれども、実際やってみて、評価対象の概要説明も詳しくしていただけますし、その後、分からないことや聞きたいことは、この事前質問提出というのがありますので、そこで質問を提出すると、各担当課から、これはこういうふうにやっていますよとか、こういうのはちょっと気づきませんでしたというような回答が事前に返ってきて、その回答を基に、A・Bグループに分かれて、さらにその御説明やプリントで頂いたものでは分からない、また、回答してもらったのだけれども、実は自分はこんなことが聞きたいのではないのだと、こういう回答を求めているのではなくて、もっとこんなことを教えてほしいのだというようなことを、この勉強会の質疑応答の時間にお話しただいて、お互い理解を深める。やはり文章だと分かりにくかったり、意図が伝わりにくいところがあるので、この勉強会の質疑応答でさらに深めていくということをしてまいりました。

あとは、課題は、もちろん行政の方から言っていただくこともとても大事なのですけれども、市民の目線から、本当はここが大事なのではないのというようなところを委員が見つけていくというのも、非常に重要な部分かと思っていまして、それが外部評価シートなどで評価していく内容につながっていくのではないかと思っています。

もちろん、行政の方から、担当課の方からの課題が挙げられたとしても、いやいや、市民が求めているのはこれだよと、そういうことを言うのが、やはり私たち委員としての役割の一つではないかなというふうに私は考えています。

外部評価シート、資料2の別紙2というのも御覧いただくと、コメント欄がたくさんあるので、こんなにコメントと思われるかもしれませんが、私はこのコメント欄につきましては、自分がとても感じたところにコメントをして、それ以外は記入していないということもありましたし、この評価のAからDというところ、先ほど事務局からも御説明あったのですが、5段階だと、やはり普通とかにつけたくなるのですけれども、それを例えばB寄りなのか、C寄りなのかというのをちょっとこちらが考えたりする内容を、例えば事前の回答であったりとか、あと勉強会を通じて、その場でまた訂正していくということもしています。

だから、自分がもし、例えば取組状況の一番上の項目をBとしたのだけれども、実際に事前の勉強会のお話を聞いたり、皆さんといろいろお話ししたことによって、自分の評価が変われば、また訂正ということもできるので、その辺は、逆に質問事項とか勉強会を通じて、自分が思った評価と、その後、またいろいろな方の御意見を聞いて変わった評価があって構わない。それもこの場で話し合っていて決めているので、それは御安心いただけたらなというふうに思います。

【委員】

今、御説明いただいたので、よく内容のほうも分かりました。

【会長】

ちょっとだけ補足をしておくと、この総計審で評価をしていくに当たっては、この資料2の別紙1という、これが施策ごとにまとまってきます。

これ、後ろの面を見ていただくと、この総合計画審議会で評価するのは、3次評価なのです。ということは、1次評価、2次評価がなされたものが我々のところに上がってきます。そこまでがこれに全部埋められて、我々のところに一式提出されてくるのです。だから、我々が評価をするときは、このものを見た上で評価していくということになります。ですから、どんな事業をどんなふうに行ったのか。役所内部ではどんな評価をしているのかということが、ここに全部書かれています。

これを我々は踏まえて、そういうやり方で本当にいいのか。そんな評価の仕方でいいのかどうかという、こういうことを我々目線でやっていくということになりますので、ある程度、議論のポイントというのは見えた形で、我々は評価できるように思います。

そのことを踏まえて、概要説明が来年の5月、そして来年の7月に何回かに分けて、この勉強会とそれからワークショップを開催するというので。そこで深掘りをしていくということになると思います。ですから、そのプロセスの中で、いろいろ確認できることも多々あると思いますし、いろいろ意見を出せる部分もあると思います。

これまでの委員の皆さんも、やはり自主的に議論したい、それから、自分たちで出した意見が次にどうなっていくのかということはもちろん確認したい。こういう意見が非常に多いところもありましたので、そういう部分も実質化していくような形にできればなというところかと思えます。その点、あらかじめ御確認をお願いできればと思います。

【委員】

丁寧な御説明ありがとうございます。私も委員と同じように、今回加わらせていただいた委員なので、どうしようという戸惑いも少なくないのですが、全体的にロジックモデルから始まって、その表現と全体の体系は、大変よくできているかなというふうに思いました。

ただ、まだ経験がないので、どこまで何をどうするか、やってみないと分からないかなというところなのですが、また資料もじっくり見させていただいて取り組めればいかなというふうに考えています。

ざっくりと伺いたいのですが、ここまで丁寧に評価している事例は、私はあまり知らないのですが、事務局の体験として、こういうきめ細かく手続を踏んでいることによって、「白井はここが負けないよ」みたいなのがあれば、ぜひお教えてください。この部分は、絶対他市には負けないという、そこら辺を聞かせてくれませんか。

【事務局】

まず一つが、そもそも総合計画の考え方がほかと大分違っているところで、これが特色だといったところがあります。他の自治体では、総合計画は分野ごとにテーマを求めて、分野ごとに施策があって、それを評価するといったところがあることが多いかと思うのですが、白井市の場合は、あれもこれもこの分野別で評価をするのではなくて、分野をまたがった戦略として評価をしているというのが特長です。若い世代定住プロジェクトであれば、都市計画だけではなくて、医療分野、子育て分野だけでもなくて、それぞれが一緒になってできているということの評価をしています。

それが実際うまく基づいてできたものが、この前も説明させていただいたのですが、産業振興部門と都市計画部門と子育て部門が一緒になって、幼稚園の送迎ステーションを作った例であり、まず都市計画部門が土地の利用を考え、産業振興部門は事業者を呼んで、子育て部門がその施設の分野とかに力を借りたと。

ですので、分野ごとで、それぞれの縦割りではなくて、横のつながりが戦略によってできて、評価も頂いているので、そこも一つ、強み、売りではないかということが言えると考えています。

【委員】

私も、今の件の続きで補足させていただきたいのですが。私も産業振興ネットワーク会議という産業振興の分野の委員を長く務めております。そういう中では、この総合計画というのを白井市の行政としては大変重んじて、重要視してやっているというのは感じております。

そういう中で、ぜひこの総合計画の委員をやらせていただいて、産業振興に関係する分野も含めて、いいまちづくりをしていきたいなというので参加をさせてもらっているのです。そういう意味では、この総合計画は、白井市としては大変重要視しているものだとこのことを市民としても感じております。

【委員】

大変よく分かりました。私も白井の都市計画審議会に関わらせていただいて、大変、分野横断的に広い視野を持っておられるなというふうなことは感じていました。

そここのところ、総合計画の評価プロセスも含めて、このロジックモデルを共有しているというところにベースがあるのだなというのを改めて理解をしました。

あと、例えばロジックモデルなんていう言葉のいろいろな使い方が、市民にあまり優しくないのではないですか。例えばロジックモデルも、もう少し平易に、計画、実施、評価の一連のプロセスの見える化とかと言ってしまったほうが分かりやすいし、スクラップアンドビルドとよく聞きますが、スクラップと突然言われても、例えば、周辺環境の状況で違ってくるし、今回のコロナの状況みたいのでも違ってくるし、事業って、進むときと、

なかなかその準備で進まないときとがあったりするではないですか。そういうのが、用語が先にぽんと出てしまうと、それはちょっと分かりにくいので、せっかく体系はよくできているのだけれども、用語ありきで行ってしまわないほうがいいかなという感想は持ちました。

【事務局】

後期基本計画のこの冊子も、まず市民に手に取って見てもらいたいというのがありますので、確かにおっしゃるとおり分かりやすい言葉というのが、今後、冊子自体は変えられないとしても、説明の仕方ですとか、今後の工夫の仕方を考えたいと思います。

【委員】

聞き漏れしたかどうか分からないので、評価についてお伺いしたいのですけれども。総合計画って、そもそも重点戦略とその分野別計画とかで全体を網羅して、政策として実行成果を上げていくものではないかなとは考えております。

今言われたその見える化とか、いろいろな市民に対する説明って、分かりやすくしないといけないのは事実であり、前回の委員会、もしくは昨年度とかの会議でいろいろ議論されて、その辺を少し見やすくしていきたいというような、しなければいけないのかなというような意見があったので、それに市のほうも取り組んでいただいているのかなとは思いますが。

それは、ロジックモデルで非常に分かりやすくなっているかと思うのですよね。これは今、先生がおっしゃいました、もうちょっと分かりやすくとか、市民の目線でもう少し分かたらいいいのかなというのは、私も同感して、ぜひ市の方をお願いしたいと思うのですけれども。改めてかえって、この評価のときに、我々が、自分たちが評価するときに、分野別の事業って、評価の中の念頭の一指標と解釈してもよろしいのですかね。

今、例えば戦略とかって資料の中でつけていただいているのですけれども、分野別事業の結果って、ホームページで確認したら、私、見つからなかったもので、その辺の結果って、非常に基本的な市の事業ではあると思うのですよね。それも進まない、この重点戦略が最終的に具体的な成果として表れてこないというのか、見えにくいというのか、になるのではないかと思うのですよね。その辺のところは、今、進めている中で御説明いただけるとありがたいのですけれども。

【事務局】

まず一つ、重点戦略事業というのが後期基本計画に基づいたもので、近居推進事業だとかいうものです。分野別と言われるものが、実施計画の冊子のまず4ページ、後期実施計画の位置づけという図を御覧ください。重点戦略事業というのは、後期基本計画に基づいた事業です。分野別事業というのは、各個別基幹計画に基づいた事業になります。

分野別については、各個別計画、御覧いただいている4ページの隣の5ページ、それぞ

れ計画で、そこでも審議会等がありまして、それぞれ計画に基づいて行われているのが確認されているということですので、分野別については、基本的には各分野の計画に進捗とかを任せているということになります。

ただ、一方で、今回答申の意見の部分で、総合計画の頂点として、基幹計画との役割分担、または相互の連携を図りたいという意見もありますので、総合計画審議会での審議の範疇は、特に後期基本計画における重点戦略の進捗状況を重点的に見ていくということになります。個別計画、基幹計画との連携というのが今後の課題になっていくのかというふうに考えています。

【委員】

最後にちょっとお話しした、その分野別の実施計画が載っているのですが、その結果って公表というか、そのホームページとかや何かで報告されていますでしょうか。

【事務局】

今回、参考資料3としてお配りしたのが重点戦略事業になりますが、分野別においても、重点戦略外事業としての事務事業評価を公表しております。

分野別事業ということでシートを別にして公表させていただいており、各個別計画に位置づけられた事業の評価になります。

【会長】

総計審では、重点施策を中心ということになっていますので、分野別という切り口からの評価ということにはなっていませんけれども。実質的にこの重点戦略以外の部分の話聞くということも、例えばワークショップの中ですとか、あるいは説明会の中で聞く機会はあり得ると思いますので、全く触れないということではなくて、ある程度実質的な内容の中で関連づけながら、今の状況を確認していくということにはできるようなと思います。

それから、今日の参考資料の3のところ、今度は事業別の一覧がかなりの分量で載っていますけれども、この辺も併せて捉えていくということになるかと思っております。かなりここまで細かく事業ベースまで見ていくと、それなりの量にはなりますけれども、先ほど言った資料2の別紙1をまずは一つの取っ掛かりにして、そこからさらに、参考資料3にあるようなところまで、自分なりに深掘りしたいという方はどんどん深掘りして、状況を確認して、分からなければ、職員に聞くという、そういう形で評価のほうを進めていくといいのかなというふうに思います。

今日は一応、会議は12時までということを用意しているのですが、今日の段階で確認をしておきたいというふうなことはございますでしょうか。

特に大丈夫なようでしたら、まず、今日の審議会を確認することになっております。先ほど申し上げた資料の2の10ページ、改めて御覧ください。

来年度の総計審、具体的には外部評価をやっていく方針、流れについて、このような形

で事務局のほうから提案をされていますけれども。これまで確認していただいたことを踏まえて、一応この10ページにある流れで、来年度この外部評価を実施させていただければというところなのですけれども。御承認いただける方は、挙手をお願いしたいと思います。

【事務局】

会場内全員、挙手いただきました。

【会長】

それでは、来年度に実施する評価については、この10ページにあるような流れで進めさせていただきたいと思います。

それから、先ほども申し上げましたけれども、資料の2の別紙1が、我々が具体的に評価をしていくに当たっての一番の基礎資料になるものです。これの在り方、要するに、これがあやふやだと、我々しっかりした評価ができないということになってしまいますけれども、この別紙1にあるような表と、それから、今度は我々一人一人が評価をするシートというのが、この別紙の2になっています。これは概要説明、それから勉強会、ワークショップを踏まえて、委員一人一人に御記入いただくシートになっています。

この二つについて、これは次の審議会で具体的に固めさせていただく予定ですが、このようなシートを用いて評価をしていくということになります。これらのシートについて、もし今日の段階でお気づきの点があったら、御意見頂戴したいと思いますけれども、大丈夫でしょうか。

【委員】

新入り委員なので分からないのですが、「優れている」「やや優れている」等の個々に優れている基準がまた違ってくるって、それでいいとは思うのですが、例えば、どこの部分がどうあるから優れているみたいなような、これまで蓄積した部分で、評価基準みたいなことをルーブリックというような言い方をしますが、そういうものはないのでしょうか。また、そういう必要はないのでしょうか。で、そういうことを検討する機会は、次回あるということでもいいのでしょうか。

【事務局】

一度、調べさせていただければと思います。

【委員】

そうしないと、そのA・B・Cのつけ方が、各委員の観点がばらばらだと、ここまで綿密なプロセスを踏んでいるのに、最後のところに来て荒れてしまうところもあると思うのですよね。ぜひ、その辺も検討してみただけならいいかなと思います。

【事務局】

分かりました。

【会長】

これらのシートについては、次回の審議会で、改めて御確認いただくということになっているかと思っております。あと今、委員のほうから御指摘いただいたことも含めて、少し確認をさせていただければと思います。

ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、時間も参りましたので、議題の一つ目は以上とさせていただいて、議題の2、その他ということで、事務局のほうからお願いをしたいと思います。

(2) その他

【事務局】

今、頂きました意見等をこれから検討させていただきまして、次回、恐らく来年の年明けになるかと思っておりますが、後日、開催日程をお知らせさせていただければと思います。

また、初めての委員さんは特に、ちょっと不安が残ったり、この事業をもう少し詳しく聞きたいとか、そういうところがあれば、いつでも構いませんので、まずは事務局までお問い合わせいただければ、対応させていただければと思います。

【会長】

全体に関して、もし今日の段階で、委員の皆さんから何か発言しておきたいことがありましたら、最後、確認をさせていただければと思いますけれども。

それでは、今年度はもう一回、この総計審予定されております。先ほど事務局からありましたように、年明けにもう一回開催をする予定ですので、その日程調整、なるべく早めに調整をさせていただいて、固めさせていただければと思います。今日のことを踏まえた上で、次年度の評価に向けて、最終的な確認もそのときにさせていただければと思います。

ということで、予定されておりました議題は、以上で全て消化いたしましたので、今年度の第1回の白井市総合計画審議会については、以上で閉会とさせていただきたいと思っております。

どうもお疲れさまでした。ありがとうございました